

◆女性と男性の違い

女性は閉経前後になると、女性ホルモンのエストロゲンの分泌が低下することでおこることがほとんどです。男性の場合も、男性ホルモンのテストロゲンの分泌低下によりおこる「男性更年期障害」があると考えられています。

女性の更年期は閉経があるためわかりやすいですが、男性の場合は、目に見える異変が少なく、あまり認知されていませんでしたが、最近注目されるようになってきました。

(片寄)

本の紹介



『みちこの更年期ポップライヴ』

著者 鈴木 自然
みちこ 食通社

あまり良い印象を持たない「更年期」という言葉。この本を読むと、本当に人によってこんなに違うのかと思うほど、多種多様な悩みや捉え方があるのがわかります。友達の悩みに答える著者とのやりとりが、軽快な文章で表現されていて、深刻な悩みも軽くなるような気がします。まさに今、更年期という人も、まだまだ先のことでピンとこない人も、読んでみてはいかがでしょう。(片寄)

リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは？

「性と生殖に関する健康/権利」と訳されています。

「全ての男女は身体的、精神的、社会的に良好な状態で安全な満足できる性生活を送り、いつ何人産むか、産まないかを決める自由と権利をもつ」ということが基本的考え方です。

リプロダクティブ・ヘルスは、生涯にわたる性と生殖に関する健康を意味し、具体的には、思春期保健、家族計画と母子保健、人工妊娠中絶、妊産婦の健康、HIV/エイズを含む性感染症、不妊、ジェンダー※に基づく暴力等を含みます。

リプロダクティブ・ライツは性に関する健康を享受する権利です。

1994年カイロでの国際人口開発会議で提唱され、今日の人口問題対策の基本理念とされています。

従来的人口対策は、人口爆発に伴う貧困等に対応するための人口統制を主な課題としていましたが、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点を取り入れ、家族計画に関する幅広い情報提供と女性の選択を支援する考え方へと方向転換されました。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点は男女双方のものですが、カッブルの間で性と生殖について意見が異なる場合は、妊娠、出産を担う当事者である女性の意見がより尊重され、女

性自ら自己決定権を持つことが大切です。

ことに、男性優位の社会では女性の意図は尊重されにくく、それだけにリプロダクティブ・ヘルス/ライツは、女性にとって重要な問題といえます。

これまで、男性主導の長い歴史のなかで、女性は性生活、妊娠や出産を主体的に選択する自由はほとんどありませんでした。日本でも、聞きかじりの性知識が多く、女性の権利に基づいた性や生殖に関する正確な情報を得る機会が少ないのが現状です。避妊を男性に依存することも多く、望まない性行為や妊娠、不本意な中絶や出産は珍しくありません。暴力によるものも見られます。性感染症も20歳未満の発症が増えています。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点からの性教育が欠かせません。

「お子さんはまだ？」何気ない一言ですが、産まない女性や産めない女性にとっては深く傷つくかもしれません。女性なら子どもを持つことが当たり前と決めつけてはいないでしょうか。世界中の女性のパワーが『リプロ』を生み出しました。大切にしたいと思います。

※ジェンダー：生物学上の性別と区別し、女らしさ、男らしさのように、社会的・文化的につくられる性別、性差をいう。

(黒澤)

まとめ

今回の特集で女性の平均寿命からすると閉経後30年以上もあることに改めて気づきました。また、若く忙しい時期に、乳がんや子宮頸がんが多いことも知りました。だからこそ、若い世代に予防をして欲しい、検診を受けてもらえたらと思います。

女性は更年期になると、からだや心が不調になり、不安になることもあると思います。しかし、心身の不調は、これまでの自分のからだや健康を見直す機会になるかもしれません。女性に「母性」や「若さ」だけを求める社会の価値観に合わせることなく、更年期が自分らしい人生80年を生きていく入り口になればいいですね。

産む産まないにかかわらず妊娠しない時だって、私たち女性はいつも女性のからだをもって生きていくのです。ライフステージとことからだの情報を得ることは、快適に生きていく大きな力となってくれることでしょう。

自分のからだは自分で守る。自分のからだはと仲よしになつて欲しいと思います。

(小松)

